1 デミングサイクル（PDCAサイクル）に含まれるのはどれか。
a 倫　理
b 実　行
c 改　善
d 効　率
e 根　拠

2 発熱と腹痛がともにみられるのはどれか。
a 胃潰瘍
b 胃静脈瘤破裂
c 胃アニサキス症
d アルコール性肝炎
e 機能性消化管障害

3 片側の眼瞼下垂を主訴に来院した患者に**不要な**検査はどれか。
a 胸部CT
b 頭部MRA
c 誘発筋電図
d 骨密度検査
e テンシロンテスト

4 乳幼児の診察手順として最後に行うべきものはどれか。
a 胸部聴診
b 腹部聴診
c 大泉門の触診
d 鼠径の触診
e 咽頭の視診

5 手指の切創の縫合処置前に確認すべき項目で**重要でない**のはどれか。
a いつ受傷したか。
b 血液型はなにか。
c アレルギー歴はあるか。
d 常用している薬はあるか。
e 十分な説明を行い、同意を得ているか。

6 「低い音」で聴取されるのはどれか。
a 大動脈弁性逆流性雑音
b 拡張期ランブル
c 心膜ノック音
d 血管雑音
e 捻髪音

7 禁煙支援の対象と**ならない**患者の状況はどれか。
a 「１日の喫煙本数は20本くらいです」
b 「公共の場所で吸えないとイライラする」
c 「喫煙に対して罪悪感を持ったことはない」
d 「喫煙に伴い前胸部痛を自覚する事がある」
e 「朝、目が覚めるとすぐに喫煙することがある」

8 疾患名と身体所見について、適切な組合せはどれか。
a 悪性貧血――――――――――――――舌　炎
b 鉄欠乏性貧血――――――――――――胃液無酸症
c 伝染性単核球症――――――――――結節性紅斑
d 再生不良性貧血――――――――――リンパ節腫脹
e 発作性夜間血色素尿症――――――匙状爪

9 左肺門部に発生した進行肺癌の患者に、嗄声を認めた。
考えられるのはどれか。
a 反回神経麻痺
b 尺骨神経麻痺
c 顔面神経麻痺
d 横隔神経麻痺
e Horner症候群

10 脳出血で入院した患者が、入院直後に左上下肢から全身へとけいれんを起こし重積状態となった。
静脈内にまず投与するのはどれか。
a ドパミン
b ヘパリン
c ステロイド
d ジアゼパム
e ペンタゾシン

11 専門施設での加療が**必要ない**熱傷はどれか。
a 両下肢Ⅱ度熱傷
b 低電圧による電撃症
c 頸部全周性Ⅰ度熱傷
d 嗄声を伴う顔面熱傷
e 水酸化ナトリウムによる化学熱傷

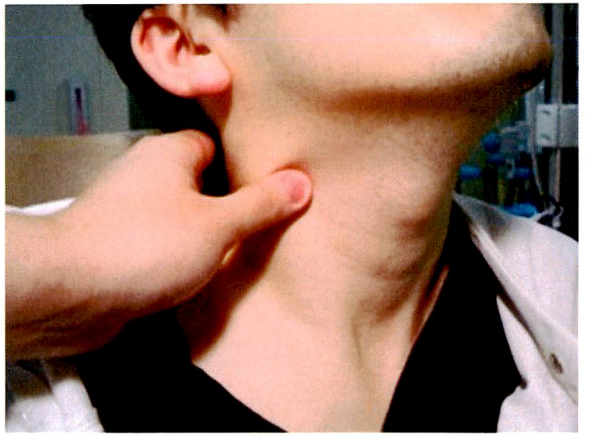
12 生活習慣病について正しいのはどれか。
a 生活習慣病に対する一次予防の具体的な施策として、健康日本21がある。
b 40歳代のBMIは20年前に比べて増加している。
c 悪性新生物、心臓病、自殺が３大死因である。
d 特定健康診査の血液検査項目には、血糖検査、腫瘍マーカー、肝機能検査がある。
e 主な生活習慣病は、肥満、歯周病、肺気腫、子宮頸癌、肺偏平上皮癌などがある。

13 医師免許のほかに法的資格が必要なのはどれか。
a 眼鏡の処方
b 異常死と思われる死体の検案
c 新生物の放射線治療
d 人工受精による不妊治療
e 本人が同意しない精神障害者の入院の判定

14 82歳の男性。3年前から友達との約束を忘れたり、電話の内容を忘れるなどの認知機能低下がみられるようになった。病院を受診し、アルツハイマー型認知症と診断され治療を受けている。
最近、家族に財布を盗まれたと、たびたび騒ぐことがあり、どのように対処してよいか困って、家人が受診した。
家人に対する適切な助言はどれか。
a 騒いだことを叱る。
b 話題を変えたりして強く患者を否定しない。
c 認知障害があることを指摘し、納得させる。
d 家族が財布を盗っていないことを説明する。
e 財布を捜し出して、盗まれていなかったことを教える。

15 組合せで正しいのはどれか。
a 股関節――――――――――――――――楕円関節
b 橈骨手根関節――――――――――――――球関節
c 母指手根中手関節――――――――――――鞍関節
d 腕尺関節――――――――――――――――車軸関節
e 上橈尺関節――――――――――――――蝶番関節

16 頭頸部診察中の写真を示す。
触診でつかんでいるのは何か。
a 僧帽筋
b 舌骨舌筋
c 顎二腹筋
d 胸鎖乳突筋
e 甲状披裂筋


頭頸部診察中の写真

17 発病要因として遺伝負因が大きいのはどれか。

a 解離性障害
b 身体化障害
c 適応障害
d アルコール依存症
e 双極性障害

18 聴診に関する記述で正しいのはどれか。

a 胸膜炎における胸膜摩擦音は吸気時にのみ聴取される。
b 呼吸困難患者でcracklesが聴取されれば心疾患は否定される。
c 腎動脈の血管雑音は聴診器の膜面を腹壁に軽く乗せて聴取する。
d 心膜摩擦音は膜面を胸骨左縁に当て患者を前傾坐位にすると聴取されやすい。
e 喘息急性増悪の治療中に喘鳴が消失すれば気道狭窄が改善していることを意味する。

19 全身麻酔下手術後の合併症で頻度が最も高いものはどれか。

a 気　胸
b 直腸潰瘍
c 誤嚥性肺炎
d 逆流性食道炎
e 下肢動脈血栓症

20 72歳の男性。右利き。左中大脳動脈脳梗塞を起こし、軽度の構音障害と中等度の右片麻痺が残存し、起き上がりや立位、数メートルの歩行に介助が必要である。妻との2人暮らしで子供は遠方に居住している。自宅への退院に際し介護保険制度を導入した。

受けられない医療サービスはどれか。

a 電動式ベッド
b 手すりの設置
c 入浴サービス
d ヘルパー派遣
e 障害年金支給

21 高カロリー輸液を行うための穿刺に適した血管はどれか。

a 鎖骨下動脈
b 下大静脈
c 橈側皮静脈
d 大腿静脈
e 膝窩静脈

22 56歳の男性。糖尿病・高血圧にて10年前から通院している。

1か月前から歯科でう歯の治療を受けていた。1週間前から頭痛が出現した。頭痛は徐々に増強し、悪心と食欲不振も出現し、右の視野が見えにくくなったきたため受診した。

現症：意識は清明。体温 37.3℃、血圧 154/88 mmHg、脈拍 94/分、整。身長 165 cm、体重 60 kg。神経学的には右同名半盲、項部硬直およびうっ血乳頭を認める。

検査所見：血液所見：赤血球 360万、Hb 9.8 g/dl、Ht 29.9 %、白血球 12,400、血小板 33.5万、血液生化学所見：AST 23 IU/l、ALT 33 IU/l、LD 225 IU/l（基準 119 ～229）、CRP 4.5 mg/dl。

頭部造影CTを示す。

緊急ですべき検査はどれか。

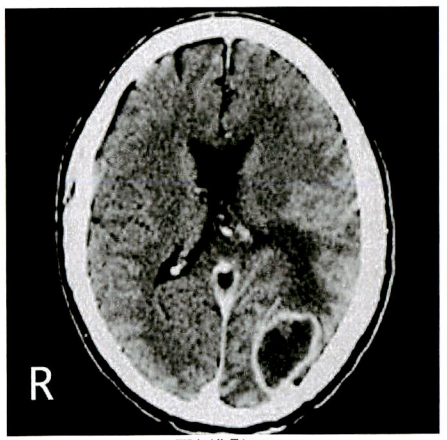
a　脳　波

b　腰椎穿刺

c　頸動脈超音波検査

d　頭部MRI拡散強調画像

e　脳シングルフォトンエミッションCT（SPECT）



頭部造影CT

23 56歳の女性。多発性骨髄腫の治療のため、3日前からVAD（オンコビン、アドリアマイシン、デキサメサゾン）療法を受けている。以下は、ベッドサイドでの会話である。

医師：「おはようございます。体調はいかがですか。」

患者：「頭がボーッとしています。2日前から夜眠れなくて。」

医師：「　　・・・・　　」

医師の発言として適切なのはどれか。

a　色々悩み事があるようですね。

b　昼間寝てばかりいると、夜眠れないと思います。

c　睡眠薬を処方しておきますから、就寝前に飲んでください。

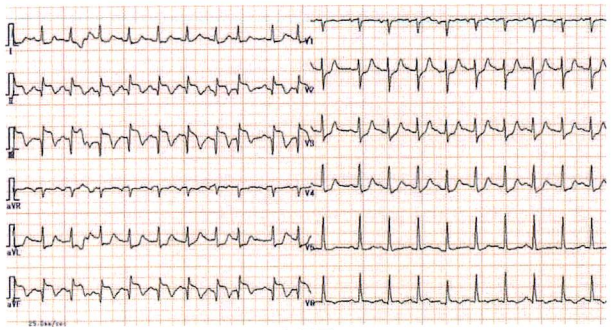
d　気になるので、頭部MRIをオーダーしますから、受けて下さい。

e　治療に使っている薬の副作用が考えられますが、他の原因も調べてみましょうか。

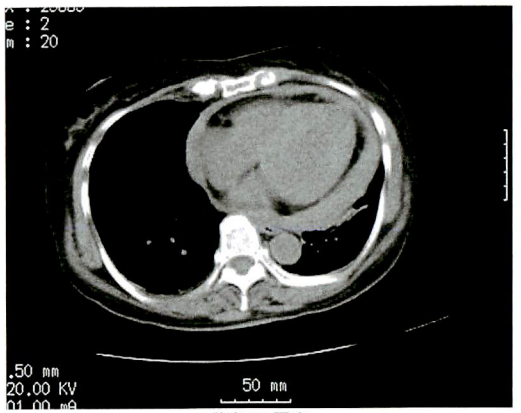
24 72歳の女性。1週間前の起床時に、今までに感じたことのない前胸部痛が3時間続いた。本日、朝食後に嘔吐があり、その後、徐々に意味不明の言葉を話しはじめたとのことで家人の要請で救急センターを受診した。心電図と胸部CT写真を示す。

この患者に**みられない**所見はどれか。

a　頸静脈怒張
b　Kussmaul徴候
c　奇　脈
d　脈圧増大
e　血圧低下



心電図



胸部CT写真

25 65歳の男性。知的障害があり、施設で45年以上生活している。最近、血痰を訴えるようになり受診。精査したところⅣ期の肺癌であることが分かった。腎機能などの臓器機能は保たれ、Performance Statusは1である。患者に病名を含め、詳しい病状説明を行ったが、十分な理解は得られない。家族はいない。

この患者の治療法の選択について正しいのはどれか。

a　患者と相談して治療法を決定する。
b　施設長と相談して治療法を決める。
c　患者および施設長と相談して治療法を決定する。
d　効果はそれほど期待できないが、副作用の軽い内服治療にする。
e　患者本人の理解が得られないので治療はしない。

26 73歳の男性。以前より糖尿病を指摘されていた。最近になり右下肢の色調変化、疼痛、知覚障害あり、当院紹介となった。右下肢は黒色で膝下動脈以下拍動は触知しなかった。動脈造影を行うと浅大腿動脈は閉塞しており、深大腿動脈のみ描出されたが下腿の動脈は描出されなかった。右下肢壊疽の診断で膝上の下肢切断術が施行された。術後経過は良好で自宅退院となった。

正しいのはどれか。

a　訪問診療は往診である。
b　介護を行う家族は金銭が給付される。
c　訪問看護は医師の指示がなくても行える。
d　要介護認定は2名の医師によって行われる。
e　訪問診療は医療保険と介護保険におけるサービスである。

27 1歳2か月の男児。生来健康であった。2日前から鼻汁、咳嗽があり、かかりつけ医から感冒薬の投薬を受けていた。今朝からぐずりだし、昼頃から嘔吐が始まった。かかりつけ医を受診し浣腸をしたところ血便が認められ、夕方に当院を紹介受診した。身長 80cm、体重 10.5kg。当院で施行した腹部超音波写真を示す。

この患児について**誤っている**のはどれか。

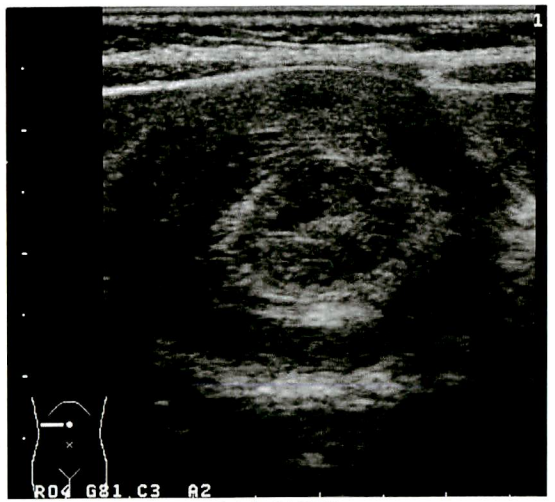
a　1時間 100m*l*の速度で輸液を開始する。

b　浣腸で認められた便はタール便であった。

c　腹部の触診で約4cm大の腫瘤を触知した。

d　約15分周期で泣いたり泣きやんだりを繰り返した。

e　治療を兼ねた注腸造影検査では、造影剤を90cmH_2Oの圧で注入する。



腹部超音波写真

28 22歳の男性。オートバイ事故で転倒し、救急車で搬送された。初診時、意識清明、脈拍 121回/分、整。血圧 76/44mmHg。右膝関節開放性脱臼骨折に伴う膝窩動脈損傷で多量な出血を認めた。

誤っている処置はどれか。

a　輸　液

b　抗菌薬投与

c　大腿動脈の圧迫

d　膝窩動脈の圧迫

e　損傷部遠位で緊縛

29 62歳の男性。最近、水を飲むとむせるため来院した。身長 169 cm、体重 69 kg。呼吸数 12/分。脈拍 72/分、整。血圧 138/72 mmHg。心音と呼吸音に異常を認めない。胸部エックス線写真と胸部造影CTを示す。

この患者に認めるのはどれか。

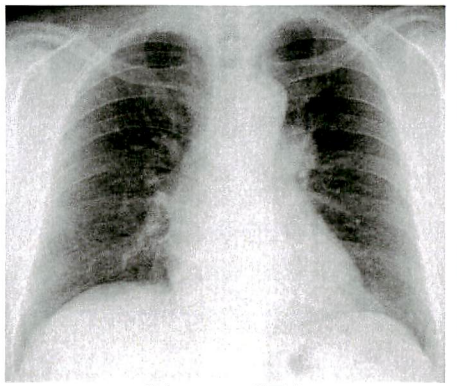
a　左顔面発汗低下

b　頸静脈怒張

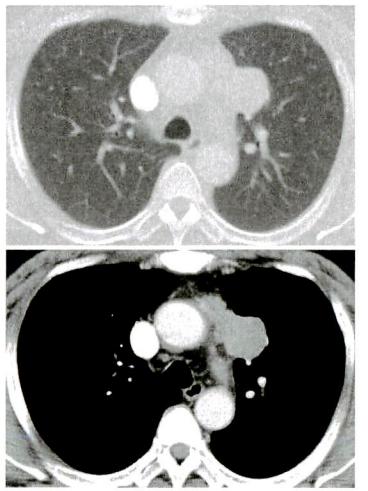
c　チアノーゼ

d　左眼縮瞳

e　嗄　声



胸部エックス線写真



胸部造影CT

30　58歳の女性。2日前から左下腿痛と腫脹があり、体熱感を自覚するようになったため受診した。特記すべき既往歴はない。渡航歴などの生活歴にも特記すべきことはない。胸痛や呼吸困難はなく、その他の随伴症状もみられない。体温 37.7℃。呼吸 18/分。脈拍 86/分、整。血圧 120/75 mmHg。頸静脈怒張はなく、心音・呼吸音に異常を認めない。腹部にも明らかな異常はない。左下腿には全体的な発赤と圧痛があり、圧痕を伴う浮腫がみられ、下腿周囲径は左の方が 3.5 cm大きい。左膝窩静脈に沿った圧痛を認める。左足趾間には未治療の足白癬がある。左大腿部および右下肢に明らかな異常は認めない。

表に記すデータを用いてこの患者の深部静脈血栓症（DVT）の検査前確率を推定し、高感度D-ダイマー検査（感度 98%、特異度 40%）が陽性の場合および陰性の場合の検査後確率の組合せとして正しいものを選べ。

臨床的特性（みられる場合に加点する）	点数
活動性の癌	1
下肢の麻痺・不全麻痺や最近のギプス固定による不動	1
最近の臥床＞3日、または12週以内に全身麻酔や局所麻酔を必要とする大手術	1
深部静脈系の分布に沿った局所的圧痛	1
下肢全体におよぶ腫脹	1
腓腹部周囲径の左右差＞3cm	1
有症状側の下肢のみにみられる圧痕浮腫	1
静脈瘤ではない側副表在静脈の存在	1
DVTの既往歴	1
DVTと同等以上の可能性のある鑑別診断の存在	−2

合計点の解釈	DVTの検査前確率
点数≧3点	53%
点数＝1点または2点	17%
点数≦0点	5%

a　（陽性の場合：8%、陰性の場合：0.3%）
b　（陽性の場合：25%、陰性の場合：1%）
c　（陽性の場合：51%、陰性の場合：3%）
d　（陽性の場合：65%、陰性の場合：5%）
e　（陽性の場合：80%、陰性の場合：10%）

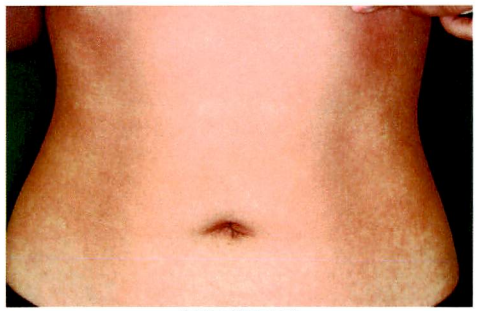
31　19歳の男性。足関節骨折の手術に先立って末梢静脈路確保のため末梢静脈穿刺を行った。
誤っているのはどれか。

a　穿刺時にしびれが生じたので、神経障害を疑った。
b　穿刺時に放散痛が生じたので、神経障害を疑った。
c　手関節の茎状突起付近を穿刺した。
d　正中神経の損傷の危険性があるので、肘正中静脈穿刺を避けた。
e　神経損傷の治療に対して、ステロイドを局所浸潤させた。

32　21歳の女性。全身の皮疹を主訴に来院した。3週間前より抗けいれん薬を内服していた。2週間前より発熱、咽頭痛、頸部リンパ節腫脹が出現し、10日前に近医を受診。感冒と診断され解熱鎮痛薬と抗菌薬を処方され内服した。その翌朝より全身に皮疹が出現したが5日で軽快した。しかし一昨日より再び皮疹が出現したため抗けいれん薬の内服を中止したが、症状は増悪、拡大するため受診した。顔面を含む全身の紅斑と、口唇粘膜にわずかなびらんを認める。腹部の臨床写真を示す。眼球・眼瞼結膜に異常を認めない。体温 38.5℃、頸部リンパ節腫脹あり。また左上肢に軽度のけいれん発作を認めている。

処置として正しいのはどれか。

a　輸　液
b　抗菌薬投与
c　解熱鎮痛薬投与
d　抗けいれん薬再開
e　副腎皮質ステロイド薬点眼



腹部の臨床写真

33　57歳の男性。血液型はA型Rh（+）。身長 165 cm、体重 82 kg。10年前から、尿糖を指摘されていたが、放置していた。最近、全身倦怠感と下肢の浮腫がひどくなり来院。来院時、血糖値 200 mg/dl、血清クレアチニン値が 3.7 mg/dlであった。尿検査では、尿糖3+、蛋白尿3+、尿中赤血球 50/1 視野、尿中白血球 50/1 視野であった。

次に行うべき治療法はどれか。

a　週3回の血液透析
b　月2回の血漿交換
c　栄養士による食事指導
d　低容量の免疫抑制療法
e　週2回の洗浄赤血球輸血

次の文を読み、34～35の問いに答えよ。

ある病気をきっかけに、減煙から開始して最終的に禁煙を目指している患者の受診時の医療面接での会話を以下に示す。

医師①「なかなかうまくいきませんね。どうしてダメなのでしょう」
患者　「意志が弱いからでしょうか」
医師②「タバコを止められたら、どのようになっているのでしょうか」
患者　「この病気の原因はタバコでしょう。だから病気も治るんじゃないですか」
医師③「そうですね。治るとよいですね。でも、1日に40本吸っていたのが20本に減ってきたのはすごいことですね」
患者　「そうですかね」
医師④「もう一歩ですね。何か良い方法はないでしょうか」
患者　「口寂しいので、つい手がのびてしまうんですよ。ダミーのパイプでも買おうかな」
医師⑤「そうですね。良いのではないですか。次の外来日までに減らす目標を立ててみましょうか」
患者　「今度までに1日10本まで減らしてみようかな」

34　行動変容に寄与する度合いが少ないのはどれか。

a　①
b　②
c　③
d　④
e　⑤

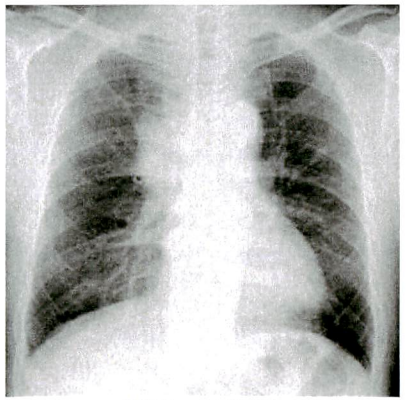
35　次の外来日に、患者のタバコの本数は1日20本のままで、「タバコを吸っている方が調子がよい」という発言がみられた。

対応として最も適切なのはどれか。

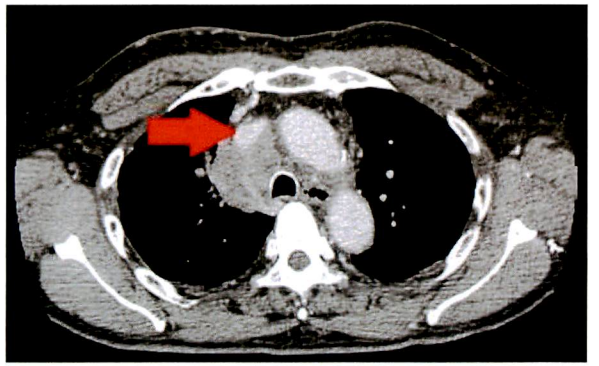
a　患者の発言を否定する。
b　タバコの悪影響について説明する。
c　発言の根拠となっている情報を聴取する。
d　通院を継続するかを確認する。
e　別の話題に変える。

次の文を読み、36～37の問いに答えよ。

69歳の男性。2週前に家人から右顔面のむくみを指摘された。徐々に顔面全体にむくみが広がり、改善しないため来院した。数日前から前胸部に血管の広がったような青あざが出現しているという。咳嗽や呼吸困難はない。体重減少や経過中の発熱もない。飲酒はせず、喫煙は15本×50年。常用薬はない。身長 165 cm、体重 67 kg。体温 36.6 ℃。呼吸 18/分。脈拍 90/分、整。血圧 130/84 mmHg。顔面はやや赤みを帯びており、全体的に浮腫様である。明らかな表在リンパ節を触知しない。前胸部に毛細血管の拡張を認める。心音・呼吸音に異常はなく、腹部にも異常所見を認めない。四肢に浮腫はみられない。胸部エックス線写真および胸部造影CT写真を示す。



胸部エックス線写真



胸部造影CT写真

36　顔面浮腫の成因はどれか。

a　間質静水圧低下

b　間質膠質浸透圧亢進

c　血漿膠質浸透圧低下

d　毛細血管静水圧上昇

e　毛細血管透過性亢進

37　胸部造影CT写真に矢印で示された構造物は何か。

a　右心房

b　奇静脈

c　総頸静脈

d　上大静脈

e　腕頭動脈

次の文を読み、38～39の問いに答えよ。

43歳の女性。関節リウマチに対する2回目のインフリキシマブ投与のため来院した。

現病歴：某医院で、6か月前に関節リウマチと診断された。メトトレキサートと少量ステロイドが投与されたが改善せず、紹介され初診した。2週間前に、1回目のインフリキシマブが点滴静注された。投与翌日から関節痛は消失した。2回目の投与のために来院した。

インフリキシマブ 150 mgを2時間かけて投与するために静脈経路を確保し、投薬を開始した。5分後、患者は気持ちが悪いと訴えたため、インフリキシマブの投与を中止した。

既往歴：特記すべきことはない。花粉症なし。

生活歴：飲酒歴なし。喫煙歴なし。

家族歴：特記すべきことはない。

現　症：身長 152 cm、体重 50 kg。体温 36.2 ℃。

投与前、呼吸数 12/分。脈拍 70/分、整。血圧 124/64 mmHg。意識清明。

投与開始５分後、呼吸数 24/分。脈拍 100/分、整。血圧 70/58 mmHg。意識清明。

38　まず行うべきことはどれか。

a　気管内挿管

b　心臓マッサージ

c　副腎皮質ステロイドの静注

d　塩酸エピネフリンの皮下注

e　シクロフォスファミドの静注

39　今後の関節リウマチの治療方針として**適切でない**のはどれか。

a　アダリムマブの皮下注射へ切りかえる。

b　エタネルセプトの皮下注射に切りかえる。

c　トシリズマブの点滴静注に切りかえる。

d　タクロリムスの内服治療に切りかえる。

e　インフリキシマブの筋肉内注射に切りかえる。